

1 Introduction

GMAT（概要）

GMAT（Graduate Management Admission Test）は、世界中の多くのビジネススクールなどの受験の際に必要な標準テストです。GMAT のテストは3分野からなっています。

1. Verbal Reasoning

読解力、論理的思考力を試すための問題で、5肢択一式です。Critical Reasoning と Reading Comprehension の2つの形式に分けられます。

2. Quantitative Reasoning

基礎的な数的処理能力を試すための問題で、5肢択一式です。

3. Data Insights

従来の GMAT の Data Sufficiency と Integrated Reasoning を融合した新しい分野です。Data Sufficiency は、与えられた情報が判断を行うのに十分か否かを問う5肢択一式です。また従来の Integrated Reasoning に含まれていた、表やグラフから、データを読み取る能力を試すための4つの形式の選択問題（Multi-Source Reasoning、Table Analysis、Graphics Interpretation、Two-Part Analysis）も出題されます。

各分野の時間、問題数、配点は次頁の表のとおりです。

科目	問題数	時間	スコアの範囲	スコアの単位
Verbal Reasoning Critical Reasoning Reading Comprehension	23	45 分	60～90	1
Quantitative Reasoning	21	45 分	60～90	1
Data Insights Data Sufficiency Multi-Source Reasoning Table Analysis Graphics Interpretation Two-Part Analysis	20	45 分	60～90	1
Total (Verbal + Quantitative + Data)			205～805	10

GMAT の特徴は、解答者の正解・不正解の状況に応じて問題の難易度が変わる Computer-Adaptive Test であるという点です。まずは中級程度の問題が出題され、解答者が正解すると次に難しめの問題が、不正解だと次に易しめの問題が出題されることになります。ただし、次の問題が易しくなったからと言って、前の問題が不正解だったとは限りません。それまでの問題の正解率の状況や問題の分野やレベルなど、総合的な判断に基づいて出題されることになります。

最終的なスコアは、問題の正解数（および解答数）と問題の難易度に基づいて判断されます。解答数も考慮されるため、未解答の問題があると最終的なスコアが低くなってしまいますので、全ての問題が解けるような時間配分が大切です。

また、最終的に各分野 3 問まで修正することが可能ですが（目印をつけることも可能）、次の問題に進むには現在の問題を解答しないと進めません。

新形式 GMAT

従来の GMAT と新形式の GMAT の主要な相違点は、下記のとおりです。

- (1) Data Insights の分野の導入：従来は Quantative Reasoning の分野に属していた Data Sufficiency が独立の分野であった Integrated Reasoning と合わさって新しい分野である Data Insights が導入されました。Integrated Reasoning で問われていた表やグラフ等の解釈も総合点にも

反映されるようになります。なお、Quantative Reasoning の分野は、Problem Solving のみとなります。

(2) Verbal の分野における Sentence Correction の廃止：文法等が中心の Sentence Correction が廃止され、Verbal の分野は Reading Comprehension と Critical Reasoning のみとなります。相対的に読解力等の比重が高まります。

(3) Analytical Writing Assessment の分野の廃止：従来含まれていた、30 分の記述式問題がなくなり、選択式のみとなりました。

問題の取り組み方（概要）

1. 時間配分に気をつける

GMAT は、どのセクションも解答時間に余裕がないので、時間配分が重要です。1 問あたり平均 2 分程度と余裕がないため、1 つの問題にこだわりすぎずに解く必要があります。問題形式に得意・不得意がある場合、得意な形式の問題に時間をかけて、不得意な形式の問題は消去法などで正解の可能性を高めた上で、時間をかけずに選択肢を選ぶのも 1 つの手です。

2. 選択肢を活用する

本文と同様に選択肢も活用しましょう。例えば、問題文からある程度解答内容を推測してから選択肢を選ぶと効率的に解ける場合が多いです。あまりに本文から外れてしまうような選択肢や、問われている内容と逆の選択肢などは、不正解の可能性が高いと言えます。

一方、問題文（あるいは本文）の読解が難しい場合には、選択肢がヒントになって内容が理解できることもあるので、選択肢を上手く活用することが重要です。

問題の取り組み方（分野別）

1. Verbal Reasoning (1) (Critical Reasoning)

Critical Reasoning の問題は、大別すると、(i)本文を分析・評価する問題、(ii)論理や解決策を構築・提案する問題があります。更に様々な頻出のタイプがあり、後ほど解説していきます。

Critical Reasoning は、まず問題文が問うている方向性を掴むことが重要です。問題によって「本文の主張に賛成するもの」「本文の主張に反対するもの」「本文